

## 学習支援体制（北海道科学大学）

### 1. 数学の基礎学力向上と「学習支援室」

学生に一定水準以上の基礎的な数学力を身に付けてもらうことを目的として、工学部においては「基礎数理演習」など、保健医療学部においては「基礎数学」を開講しています。

また数学の「学習支援室」を、毎日5講目に図書館の一室で開設し、数学教員が学生の指導・助言に当たっています。「学習支援室」は本学の学生であれば誰でも利用でき、数学に関する質問を受け付けています。

### 2. 英語e-Learningによる自学自習・学習支援システムと「学習支援室」

英語e-Learningシステムを導入し、英語の必修授業と連動させて、英語の自学自習・学習支援に活用しています。その基本的活用方法は次のとおりです。

- 1) e-Learningシステムを利用した英語学習は各自が授業時間外に取り組む。
- 2) シラバスにe-Learningで到達すべき学習進度を明記し、e-Learningによる予習を義務付ける。
- 3) 初回の授業においてオリエンテーションを行い、e-Learningシステム導入の目的を認識させ、学習進度上目安となる期日を提示する。
- 4) e-Learningでの予習内容を、授業で使用する共通文法学習教材(本学英語教員作成)の内容と関連付け、この内容について授業で小テストを行う。
- 5) 教員が学生一人ひとりの学習進行状況をモニターし、きめ細やかな支援に努める。
- 6) e-Learningによる取組みの努力を成績評価に組み入れる。

また、英語e-Learningシステムと連動させた「学習支援室」を学期期間中の月～金曜日5講目に開設しています。授業の中で行っているe-Learningの確認テストの結果で、今後の学習に支障をきたすと判定された学生に対しては、科目担当教員が「学習支援室」で個別指導を受けるように指示し、該当学生は英語の学習方法、適切な教材水準の選択、e-Learningシステムによる自習方法について指導を受け、その場でe-Learningシステムを用いて課題を遂行することとなります。英語の「学習支援室」は、本学の学生であれば誰でも利用することができます。基礎学力の補充の他にも、英検、TOEICなどの英語資格試験へのアドバイス、留学希望者からの相談も受け付けています。

7) 薬学部でもe-Learningを導入しており、科目と関連付けて運用しています。2年生前期までは初級、中級、上級文法を扱い、2年生後期では、本学教員と業者が共同開発した「医学英語」に特化したe-Learningプログラムを使用しています。

### 3. オフィスアワー制度

学生からの学業や学生生活全般にわたる質問や相談に対し、教員は授業時間内のみならず日常的に時間の許す限り対応していますが、学生への便宜をよりいっそう図るため、前期授業期間及び後期授業期間に週1回の学生とコミュニケーションを図る時間帯(オフィスアワー)を設定しています。

### 4. 「ノートPCサポート室」

入学時に全学生にノートPCの所有を義務付け(短期大学部は除く)ています。また、大学が契約しているライセンスにより、学生・教職員はマイクロソフト社のoffice(パワーポイント、ワード、エクセル等)等のアプリケーションソフトを使用できるよう便宜を図っています。これらノートPCのトラブルに対応するため「ノートPCサポート室」を設置し、平常授業日は8時50分～18時00分、定期試験期間及び補講日は8時50分～17時00分まで開室しています。具体的な業務内容は、ノートPCのトラブル対応・アドバイス、ノートPCの貸出(修理期間中)、ソフトウェアインストール等に関する相談受付となっています。

### 5. 薬学部の学習支援

薬学部では、B棟に様々な形での学習を支援する学習室を多数設置しています。グループでの学習やホワイトボードやプロジェクタなどを利用できる協働学習室、仕切りのある机で個人で集中して勉強できる個別学習室、自己学習用の視聴覚教材、学習用参考図書を設置している学習支援室などです。また、学習上の悩みに薬学教育・開発支援室の教員が対応し、先輩学生が後輩学生の学習支援を行うピア・サポート制度があります。

全学年利用可能なPSSS(薬学学習支援システム)でCBT(薬学共用試験において基本的な知識を問うテスト)形式の問題や総合演習Ⅱ・薬剤師国家試験の過去問など合わせて約22,500問を搭載し、インターネットを利用できる環境であればスマートフォンやタブレットPCでも解くことができます。